

性別にとらわれず、誰にとっても暮らしやすい社会へ

COM+S

COMMON COMMUNICATION COMPANION
コムズ

2020.1
Vol.60



P 2・3 コムズのあゆみ ～コムズと共に20年～

P 4・5 わたしたちの今、そしてこれから

P 6・7 学びを広げよう！ ～新たな一歩を今～

P 8 事業案内・アクセス情報

What's コムズ?

COMMON (共通の)、COMMUNICATION (コミュニケーション)、COMPANION (仲間)の接頭語「COM-(コム)」は「共に」という意味です。これを複数形にすることにより、男女を問わず多数の人が集う場所を表現しています。「+S」は男女みんな(複数)の平等と、プラス思考、プラスαなど、知り学び、創造し、伝えていく、前向きな姿勢を表現しています。

コムズのあゆみ

～コムズと共に20年～



理事長
桐木 陽子

松山市男女共同参画推進センター「コムズ」は、平成12(2000)年2月、新しい時代を切り拓く拠点の一つとして、皆さまの期待のもとオープンしました。「男女共同参画社会基本法」が、通常国会において衆参両院とも全会一致で成立した翌年のことです。以来、センターは様々な研修、講座など学習の場として、また、自主活動の場として活用されてきました。さらに、国際交流センター、新玉児童館、NPOサポートセンターなど関連団体の活動も相まって、いきいきとした市民活動の拠点として発展してきました。これも、ひとえに皆さま方のご支援、ご協力の賜物と深く感謝いたしております。

これからも、男女共同参画を推進するために、新たな地域課題にも真摯に向き合い、研修・情報・相談という総合支援施設としての強みを活かしてまいります。そして、より実践的な活動のための連携・協働、ネットワークの中心的な役割を担うべく努力を続けていく所存です。



前理事長兼館長
鎌田 サチ子

コムズ20周年

コムズ開館20周年おめでとうございます。私は平成17年4月1日着任しました。「日本女性会議 2004」の松山市での開催を終え、男女共同参画の機運のさらなる高まりを求める時期でした。

国も地方公共団体も、男女共同参画に関する制度の制定を積極的に進めていました。男女共同参画を市民一人ひとりの認識・実践に高めていくために、職員が努力し、各種講座や事業を実施しました。相談室では、相談件数も増加し自助グループの活動も活発でした。ファミリーサポートセンターでは、病児・病後児の預かりも始まり、交流会にもぎやかでした。

職場で活躍する女性、地域社会で活躍する女性、家庭の中で活躍する男性も増加しました。コムズの利用者も10万人近くまで膨らみ、松山市男女共同参画推進センターの公益財団法人化が進められました。市民が生きやすい松山市のために、ますますセンターの活躍を期待します。



館長
小椋 由紀子

新たな一歩を今

令和の時代の始まりと共に、コムズは開館20周年を迎えました。男女共同参画社会の実現をめざし、市民の皆さま方と共に歩んだ20年です。近年の女性活躍推進法や働き方改革法の施行は、女性自らが生き方を選択する幅を広げることに繋がっているように感じます。それは、コムズフェスティバルが今年も、市民団体・登録団体の皆さま方の思いが詰まった企画をもとに、皆さまによって創っていただく催しとなっていることから伺えます。

コムズは、長年尽力されてきた方々や今動き始めた方々と共に、性別にとらわれず、互いのよさを生かした暮らしができるように「新たな一歩を今」踏み出します。

国・松山市の動き



女性相談(1999年度～)・男性相談(2003年度～)
電話と面接、お好きな相談方法を選択可能。家族や地域、社会の中で孤立することなく「自分らしく」生きていけるよう、解決方法を一緒に探るお手伝いをします。コムズでは、全国でも実施が少ない男性相談も実施しています。

コムズフェスティバル(1999年度～)
男女共同参画社会の実現に向けて専門的見識を持つ講師による基調講演や、市民企画による分科会、パネル展示などを開催。



公開講座(1999年度～)
男女共同参画の視点を持って活動しておられる講師をお招きし、ご講演いただけます。



親子でトライ(2000年度～)
父親と子どもを対象にした料理や遊び教室、親と女子児童を対象にした科学体験など、内容は様々。男女が共に子育てにかかわるための意識啓発を行います。お子さんの新しい体験の機会となったり、親子の時間を満喫したりできる講座です。



調査研究事業(2000年度～)
松山市における男女共同参画推進事業の方向性を見いだすために実施しています。「男女共同参画に関する市民意識調査」「男女間におけるパートナーシップに関する調査～ドメスティック・バイオレンスの実態調査～」「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)に関する市民及び事業所意識調査」「児童及び市民の男女共同参画市民意識調査～教育現場における男女平等の推進を目指して～」など。当財団ならではのテーマで、市民の意識や実態を調査し、分析します。

学習資料(2000年度～)
男女共同参画社会の実現のために、市民の皆さまが理解し、行動できるよう、様々な視点で資料を作成しています。「はじめてのワークライフ・バランス」「グッドコミュニケーションをしよう～わたしからあなたへあなたからわたしへ～」「松山市イクメン手帳パパパス」「大切にしよう、わたしのこころ・からだ・生き方」「それって愛情?それともデートDV?」など。



DV関連講座(2000年度～)
女性に対する暴力をなくすための講座を開催し、女性の人権の尊重や女性の自立について知り、考える機会を提供します。

映画上映会&ミニトーク(2001年度～)
当初は「ビデオ上映会」として開始。男女共同参画の視点で考える作品を上映し、「男女共同参画」は身近なものだと感じてもらう、関心を持ってもらう機会を作っています。



コムズde遊ぼう(2004年度～)
コムズ登録団体の皆さまが、日頃の活動成果を発表。体験ワークショップ・パザー・展示と、盛りだくさんの内容となっています。



まどんな応援企業宣言認証制度(2015年度～)
男女共同参画に積極的に取り組んでいる企業を「まどんな応援企業」として認証し、講師派遣などの支援も行っています。今年度は77社が認証されました。

コムズの動き

わたしたちの今、そしてこれから

有限会社 オルソ本田
取締役
本田 美紀さん



20年。変わりゆく中で、 変わらないもの

コムズ開館20周年おめでとうございます。あえてここではコムズと言わせていただきますが、コムズの歴史は私の歴史でもあります。

この20年、時代と共にコムズに求められる課題も変わり、求められたテーマも浮かんで消えていったものもあります。しかし、不変であるのは、男性・女性にかかわらず、誰もが幸せに自分らしく生きられる社会へのハブとなるコムズであり続けること、気づきや学習の場所であり、繋がれる場所であることは、この先も不変だと私は感じております。

ウエルエイジングクラブまつやま
代表
土居 園江さん



男女共同参画時代の 高齢者像を追い求めて

人類が夢見た人生100年時代が現実になりました。しかし、めでたいはずの長寿が超高齢社会にあっては若年代への負担増や社会の活力低下につながりかねず、またこの20年の社会環境の急激な変化は、高齢者に様々な問題を突きつけます。

こうした中で私たちはコムズでの学習や活動を通して、男女共同参画型の高齢者像を追い求めてきました。手探りの状態ながら、私たち世代こそは一人ひとりが老いても病んでも自分らしく生きるために心を鍛え、支え合って安心な地域社会を構築する当事者でありたいと願うに至っています。

特定非営利活動法人
ワークライフ・コラボ
代表理事
堀田 真奈さん



一歩踏み出すきっかけづくり、 の場所として

「コムズがいいと思う。堀田さんがやろうとしていること、コムズの趣旨にも合っていると思う」一私が12年前に、仕事と子育ての両立に悩み、解消のために始めた活動(ワークライフバランス向上委員会)の、場所選定での知人の助言です。あれから数えきれないほどの座談会、勉強会、場所をお借りするだけでなく、職員の方に団体継続の助言や励ましの言葉をもらったり、一歩のきっかけをもらったりした場所です。私とコミュニティを育ててもらったコムズに、心からのお礼とバンザイ!を申し上げます!

一般社団法人
愛媛県摂食障害支援機構
代表
鈴木 ころろさん



「自分らしく生きたい」を 支える拠点——私たちの出発点

コムズ開館20周年、おめでとうございます。摂食障害者の自助グループ「リボンの会」が誕生したのは2004年で、その立ち上げにあたっては、コムズに強く支えていただきました。そして、それ以降、コムズを拠点として、様々な分野の自助グループや家族会などが新たに活動するようになったと伺っています。

個人が自立と社会参画を進めていくためには、周囲の仲間と助け合い、支え合うことが大切だと感じています。今後もコムズが、自分らしく生きたい人にとって、旗揚げの場や活動の拠点として、輝き続けることを願っています。

合名会社 山澤商店
代表
山澤 満さん



はぐくみ、つなぐ場所として、 男女共同参画推進への期待

この20年間に条例が出来、基本計画も推進され制度や社会通念は良くなっているものの、家庭や地域社会での男女共同参画はやや停滞を感じます。国全体としても国際的なジェンダーギャップの順位は過去最低となっています。原因は様々考えられますが、地域の中で女性が「責任を伴う意思決定の場」にもっと参加することで活躍の場を広げる必要があると思います。

コムズにおいては、より多くの女性リーダーを育てることで地域社会の風通しを良くする役割を期待します。また、共生社会の在り方の中でその他の問題にも対処して欲しいと期待しています。

女性と防災の会
代表
小國 恵子さん



考え備える防災活動 ——多様性に寄り添う場所へ

コムズと共に歩んで20年。担当職員と話し合いながらポスターを作った市民企画分科会がちょっぴり懐かしい。ここで多くの人と出会い、ともに活動する仲間が女性と防災の会です。「何を備える?」から始まった活動は10年を過ぎ、災害が起こる度に防災減災活動への思いは強まります。

今後、大地震だけでなく気候変動による災害も予想されるなか、4つの施設で構成されているコムズの果たす役割はとても大きいと考えます。母子、外国人、女性や子どもたちが防災後に安心して利用できる場所として、どう寄り添い何ができるか、平時のいま考え備えることが必要です。ぜひ期待しています。

松山市NPO登録団体
ピアリンクinえひめ
代表
田中 菜さん



“情報の発信地”自分を大切にし、 イキイキと生きるために

私たちは設立から7年の若い団体ですが、その歩みの側にはコムズがいつもあり、思春期から若者向けに性に関する正しい情報を届けるイベントや、子育て中の母親の自己肯定感を高めるための教室などを開催してきました。

ネット環境の普及で情報過多になっている若い世代の人たちに、自らの体と心を守り育てるために必要な情報を、コムズから発信できることに大きな意義を感じています。これからも自分の人生をイキイキと生きるために必要な情報の発信地として、コムズが若い世代の心強い応援団であってくださることを期待しています。

20年間、たくさんの方に支えて
いただき、今のコムズがあります。
また一方で、コムズも、市民の
暮らしや活動を見守ってきました。
コムズはこれからも、市民の
集いの場として、頑張る皆さまを
応援します。



コムズちゃん

学びを広げよう!

～新たな一歩を今～

笑って考えよう! 生活のこと 仕事のこと 未来のこと 男の家事が社会を救う!

講師：東京大学大学院 教授 瀬地山 角さん

令和元年6月1日(土) 東京大学大学院教授の瀬地山 角さんをお迎えして公開講座を開催。男の家事をキーワードに、男性目線のユニークなジェンダー論を、わかりやすくユーモアたっぷりの語り口でお話いただきました。社会はもちろん、個人にとっても、今までのやり方を変えていくのは容易ではありません。男の家事・育児を実践してこられた瀬地山先生のお話には、勇気をもらった方もたくさんいらっしゃったのではないのでしょうか。ご自身の体験を交えた瀬地山先生の講話は、男女共同参画に対する意識が高まるだけでなく、前向きな行動につながる講座になりました。



『夫の家事時給は高い』

女性が働き続けることができれば、その生涯収入は宝くじを当てるレベルの額に。妻が仕事を続けることができれば、夫は、残業をするよりも家に帰って家事・育児をする方が、夫婦はより高い時給を得られる計算になる。夫だけが家計を支えるよりも、夫婦の二本柱で家計を支える方が、もしもの時に安心。

『イクメンという言葉が嫌い』

夫にとって育児は手伝うものではなく妻と分担するもの。イクメンは英語に訳せばファーザー。「育児をする父親」を表す新しい言葉を作る必要はない。



『家族と一緒に夕食が食べられる幸せを大切にしよう』

家族が死ぬときと、家族が生まれるとき、人生にそれ以上の大事件なんてありますか?

- 夫の産休を忌引きと同程度に普及させよう。
- 家族と一緒に過ごせる日々をもっと大切に。



日本の自殺者の7割は男性というデータを踏まえ、男性も肩の荷を下ろそうと語りかける瀬地山先生。男性こそワークライフバランスが必要だとおっしゃいました。男女共同参画やジェンダー論と聞くと、敷居が高いと感じる方もいるかもしれませんが、「“家族と一緒に過ごせる日々をもっと大切に”するために、働き方を考えよう」と言われると、身近な問題に感じられるのではないのでしょうか。生きづらさが指摘されることの多い昨今。男女共同参画は、女性だけでなく男性の人生も、より自由で豊かなものにと感じました。

離婚率は三割以上
・“結婚=永久就職”の時代ではない
・これからの少子高齢化を現状の社会では支えられない

・性別による役割分担から自由に
・夫婦で仕事・家事・育児を分担する

・結婚や出産に関わらず、女性が働き手として活躍
・子どもを望む人たちにとって、より子育てしやすい環境へ
・仕事優先の毎日から解放され男性はもっと心身を健やかに

県市共同
開催事業

日頃から備えておくこと

～西日本豪雨・熊本・東日本大震災から学ぶ～



講師：公益財団法人ジョイセフ
市民社会連携グループ グループ長 小野 美智代さん

令和元年9月7日(土)、講師に小野 美智代さんをお招きし、地域防災講演会を行いました。県市共同開催事業ということで、大洲市や今治市など松山市内外から多くの方にご参加いただきました。いづくで災害が起きるか分からない現代の日本。小野さんが過去の活動から学んだことを元にお話いただき、物資だけでなく、特に女性が日頃から備えておくべき知識や心構えを教わりました。

『私たちが日頃から備えるべきこと』▶▶ 本来の力(回復力、復元力)を上げておくことが重要!

- ① 健康、体力
- ② つながりをつくる
★近隣との交流
★PTAや地域活動への参加
★SNSやネットワークの登録
- ③ 防災リテラシーをつける
★予測力・予防力・対応力をつける
※防災リテラシー 災害に遭遇したとき、目の前の状況に対して適切に行動し、想定外の事態から自分自身を救う能力のこと。



報道されない二次被害として、東日本大震災のときに実際に起きた、性被害のお話もしていただきました。

ボランティアを
装った人から

町内会や、地域で
活躍する人から

男の子にも

顔見知りからの被害が多く、周りの人に被害を言いづらい。助け合いや思いやりの気持ちが被害のリスクになることも…。前の災害時に起きていたことが、新たに起きた災害で初めて語られることもあるそうです。報道されないような伝わりづらいことも、少しでも実例を知っているだけで、いざという時に支えあったり対応できることがあるはず。

女性と母子のために長年活動されてきたジョイセフだからこそのお話をお聞きでき、貴重な機会となりました。今回の講座は、地域の防災リーダーや防災に関する活動をされている方、若い方や男性の方にも多くご参加いただくことができました。この学びを地域やご家庭で共有し、一人ひとりが日頃から備えておくようにしていただけたらと思います。

『女性に対する暴力をなくす運動週間』を知っていますか?

11月12日～25日の「女性に対する暴力をなくす運動週間」(内閣府主催)に合わせ、「みんなの生活展2019」(松山市主催)でのパネル展示による啓発と街頭アンケート、当センター1階ロビーにて啓発展示、また週間にちなんだ内容の「映画上映会&ミニトーク」を開催しました。週間の認知度は、まだまだ低い現状であり、さまざまな角度から「女性に対する暴力」について考えるきっかけをつくっていただければ、毎年実施しています。



◆「配偶者から暴力の被害を受けたことがある女性」は31.3%です。(内閣府H29年度調査より)3人に1人の女性が被害にあったという現状を、皆さんはどう感じるでしょうか。昨今は、虐待(子どもに対する暴力)や体罰が社会全体で問題視されています。このような現状を受け、「みんなの生活展」街頭アンケートでは、「配偶者から暴力の被害を受けたことがある女性」は多い」と考える方が多くいらっしゃいました。暴力に関する世間の関心は高まりつつあります。

◆映画上映会で上映した「はじまりの街」(2016年/イタリア・フランス合作/107分)の主人公は男子です。DVの被害にあう母を目撃し、少年自身もひどく傷ついてしまっています。DVは、被害にあう本人はもちろん、DVを目撃した子どもも被害者なのです。(=心理的虐待)

学校の授業で「男女共同参画」を学ぶために

「男女共同参画」を学校の授業で学ぶことをご存じですか。中学生は、3年生の社会科の公民分野で「男女共同参画」について学習します。どこまで掘り下げられるかは、担当する先生の工夫が影響します。「男女共同参画」を身近なものとして感じないまま、ことばを覚えている生徒さんもあるかもしれません。しかし、学校の先生方は通常の授業準備や部活動などで多忙を極めており、新たに「男女共同参画」についての授業を計画するのは負担が大きくなってしまいます……

そこでコムズは、先生が授業にすぐ使うことができる【中学生向けの学習資料】を作成しました。社会科・家庭科・道徳・総合的な学習・特別活動の授業内容です。松山市の中学生を対象にコムズが実施した「男女共同参画社会に関する中学生意識調査」(平成31年実施)の結果も参考に作られているため、松山市の中学生の皆さんのための教材となっています。性別にかかわらず、一人ひとりが個性を尊重しあう価値観を育て、また、将来の生き方を考えるきっかけとして活用していただければと思います。

相談室

相談は無料です
秘密は厳守いたします

【女性相談】 ※面接相談はご予約ください

相談専用電話・
面接予約電話

089-943-5770

- 電話・面接相談時間 火・水・金・土曜日 10:00～20:00 / 日曜日・祝日 10:00～16:00
 - 電話相談(1回30分) ■面接相談(1回50分) (最終受付16:00 ※日祝15:00)
 - 休館日:月曜日(祝祭日の場合はその翌日) / 年末年始(12月29日～1月3日)
- ★託児付面接相談も行っています。詳しくはお問い合わせください。(要予約)

【男性相談】 ※電話・面接ともに要予約

相談専用電話・
面接予約電話

089-943-5777

- 電話・面接相談時間 毎月第2水曜日・第4土曜日(変更する場合あり) 18:30～20:30
- 電話・面接相談(1回30分)
- 休館日:月曜日(祝祭日の場合はその翌日) / 年末年始(12月29日～1月3日)

まつやまファミリー・サポート・センター

～あなたも **子育て** **介護** の応援ネットワークに参加しませんか～

「まつやまファミリー・サポート・センター」は、育児の援助、高齢者等に対する軽易な介護等の援助を受けたい方と、それらの援助のできる方となる会員組織です。どうぞお気軽にお問い合わせください。[TEL:945-1008]

困ったなと思った時に登録していると安心です
“助けてほしい” “お手伝いしましょう” そんな気持ちの橋渡し



貸館のご案内

【施設概要】

※その他の施設の()は定員



大会議室



調理室

開場名	定員	床面積	料金		
			午前	午後	夜間
大会議室	144名	206㎡	6,930円	11,340円	10,290円
視聴覚室AB	60名	146㎡	7,560円	9,660円	8,820円
調理室(全室)	27名	97㎡	5,040円	6,510円	5,880円
その他	会議室1～5(12～72名) / 多目的室(23名) / 和室(24名)等				

コムズの登録団体になると登録団体料金(通常料金の半額程度)にて施設が利用できます!
施設の詳細や登録団体については[施設担当(総務係)TEL:089-943-5776]までお問い合わせください。

※コムズは、男女共同参画社会づくりの推進、国際交流の促進および児童の健全育成等を目的とした複合施設です。そのため一部利用制限を設けています。

アクセス・お問い合わせ先

松山市男女共同参画推進センター **COM+S** (コムズ)

所在地 〒790-0003 愛媛県松山市三番町6丁目4-20

開館時間 火～土曜日 9:00～21:00 / 日・祝 9:00～17:30

休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日)、12月29日～1月3日

TEL 089-943-5776 / 5777 FAX 089-943-0460

E-mail coms@coms.or.jp URL https://www.coms.or.jp



30台程度

※駐車場には限りがありますので、公共交通機関をご利用ください。